



TITLE:

生態機構分野(II.研究所の概要)

AUTHOR(S):

上原, 重男; Huffman, M.A.; 橋本, 千絵

CITATION:

上原, 重男 ...[et al]. 生態機構分野(II.研究所の概要). 霊長類研究所年報
2005, 35: 28-30

ISSUE DATE:

2005-08-31

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/166199>

RIGHT:

2004 年年会 (2004 年 6 月, 北九州市) 講演予稿集: 132.

- 16) 鏑本武久, 高井正成, 江木直子, スースラトン (2004) 始新統ポンダウン層 (ミャンマー) から産出したカリコテリウム上科の奇蹄類化石. 日本古生物学会 2004 年年会 (2004 年 6 月, 北九州) 講演予稿集: 43.
- 17) 鏑本武久, 江木直子, 高井正成, チットセイン, マウンマウン (2005) 中部始新統ポンダウン層 (ミャンマー) から新たに産出した 2 種の偶蹄類化石. 日本古生物学会第 154 回例会 (2005 年 1 月, 山形) 例会予稿集: 75.

講演

- 1) Takai, M. (2004) The Pondaung primates: Enigmatic "possible" anthropoids. Lecture at the New York Consortium in Evolutionary Primatology (Oct. 2004, New York, USA) American Museum of Natural History: .
- 2) 茂原信生 (2005) 骨や歯からのメッセージ: 化石から霊長類の進化を探る. 京都大学附置研究所シンポジウム (生存基盤科学の創成に向けて) (2005 年 3 月, 宇治).
- 3) 茂原信生 (2004) 骨格や歯が語るもの: メッセージを読みとるために. 長野県教育委員会埋蔵文化財センター研修会 (2004 年 12 月, 長野).
- 4) 茂原信生 (2004) 日本人の由来とそこから見える未来. 名古屋市千種区医師会 (千万会) 研修会 (2004 年 10 月, 名古屋).
- 5) Takai, M. (2004) Searching for fossil primates in South America and East Asia, from the Middle Miocene to the Late Eocene. Lecture at the New York Consortium in Evolutionary Primatology (2004 年 10 月, New York).
- 6) 高井正成 (2004) 霊長類の起源と進化: サルの来た道をたどる. 第 20 回日本霊長類学会大会公開シンポジウム (2004 年 7 月, 犬山).

その他

- 1) 高井正成 (2004) 霊長研フォーラム第 26 回. 広報いぬやま 11 月 1 日号.

社会生態研究部門

生態機構分野

上原重男, M.A. Huffman, 橋本千絵

<研究概要>

A) アフリカに生息する野生チンパンジー・ボノボの生態と行動

上原重男, M.A. Huffman, 橋本千絵,
座馬耕一郎 (学振特別研究員)

タンザニア国マハレ山塊とルボンド島(ヴィクトリア湖), ウガンダ国カリンズ森林とブドンゴ森林, ギニア国ボソウ, コンゴ民主共和国ワンバなどのアフリカ各地を調査地として, チンパンジーを中心に生態学的調査をしている. 最近では地域間・集団間の文化(伝統)の違いを明らかにし, その進化的意義を考察するために以下の研究を行った. マハレでは, 同所的に生息する哺乳類に及ぼすチンパンジーの狩猟圧を考察するために, 大・中型ほ乳類のうちチンパンジーの被食種の生息密度をモニタリングしている. また, チンパンジーのシラミの密度を推定し, チンパンジーの毛づくろい行動に与える影響を調べた. 地域差が極端なアリ食行動の背景にあるアリ相の量的比較を, マハレとカリンズのあいだで試みた. 類人猿の自己治療行動研究の一環として, チンパンジーの寄生虫感染症と SIVcpz ウィルスによる感染を, さまざまな地域間で比較している. ルボンド島では, 移入された西アフリカ由来のチンパンジーの行動生態学的研究を 2000 年に開始し, 島全域の植物環境を集中的に調査している. カリンズ森林では, メスの性行動について研究を行った. マハレ山塊とボソウで, 野生チンパンジーのメス 2 頭が性皮をこする行動の観察について, ボノボや飼育下チンパンジーの研究と比較し報告した.

B) ニホンザルの行動生態学的研究

上原重男, M.A. Huffman, 半谷吾郎 (学振特別研究員), CAD Nahallage (大学院生),
J-B Leca (外国人共同研究者)

ニホンザルの自然群や餌づけ群, 飼育コロニーで調査をしている. 嵐山 (京都府), 小豆島 (香川県) 高崎山 (大分県), 幸島 (宮崎県) 等の餌づけ群と霊長研内の放飼場コロニーでは, 石遊びなどの文化的行動の社会的学習・伝播機構の比較研究をした. また, 屋久島 (鹿児島県) では体温調節行動について研究を行った.

C) 屋久島のニホンザルの生態学的研究

半谷吾郎 (学振特別研究員),
座馬耕一郎 (学振特別研究員)

屋久島 (鹿児島県) では、海岸線から山頂部までの環境の変化が、野生ニホンザルの生息密度、活動時間配分、食物競合、社会関係などに与える影響を研究した。とくに高標高地域では、夏季に全国からボランティアの学生を募って一斉調査を行い、密度や群れ構成などの人口学的資料を集めた。また森林伐採がニホンザルに及ぼす影響やニホンザルによる種子散布について研究を行なった。

<研究業績>

原著論文

- 1) Furuichi, T., Hashimoto, C. (2004) Botanical and topographical factors influencing nest-site selection by chimpanzees in Kalinzu Forest, Uganda. *International Journal of Primatology* 25(4): 755-765.
- 2) Hanya, G. (2004) Seasonal variations in the activity budget of Japanese macaques in the coniferous forest of Yakushima: effects of food and temperature. *American Journal of Primatology* 63(3): 165-177.
- 3) Hanya, G., Matsubara, M., Sugiura, H., Hayakawa, S., Goto, S., Tanaka, T., Soltis, J., Noma, N. (2004) Mass mortality of Japanese macaques in a western coastal forest of Yakushima. *Ecological Research* 19: 179-188.
- 4) Hanya, G., Yoshihiro, S., Zamma, K., Matsubara, H., Ohtake, M., Kubo, R., Noma, N., Agetsuma, N., Takahata, Y. (2004) Environmental determinants of the altitudinal variations in relative group densities of the Japanese macaques on Yakushima. *Ecological Research* 19(5): 485-493.
- 5) Huffman, M.A., Hirata, S. (2004) An experimental study of leaf swallowing in captive chimpanzees-insights into the origin of a self-medicative behavior and the role of social learning. *Primates* 45(2): 113-118.
- 6) Kaur, T., Huffman, M.A. (2004) Descriptive urological record of chimpanzees (*Pan troglodytes schweinfurthii*) in the wild and limitations associated with using multi-reagent dipstick test strips. *Journal of Medical Primatology* 33(4): 187-196.
- 7) Krief, S., Huffman, M., Sévenet, T., Guillot, J., Bories, C., Hladik, C., Wrangham, R.W. (2005) Non-invasive monitoring of the health condition of wild chimpanzees (*Pan troglodytes schweinfurthii*) in the Kibale National Park, Uganda. *International Journal of Primatology* 26(2): 467-490.
- 8) Nakamura, M., Uehara, S. (2004) Proximate factors of different types of grooming hand-clasp in Mahale Mountains chimpanzees: implications for chimpanzee social customs. *Current Anthropology* 45(1): 108-114.
- 9) 中井將嗣, 伊藤詞子, 中村美知夫, Huffman, M.A., 西田利貞 (2004) 野生霊長類の遺体、特にその骨や歯からの個体識別についてータンザニア, マハレ国立公園における野生チンパンジーの実例からー. *霊長類研究* 20: 1-9.

報告

- 1) 橋本千絵 (2004) ウガンダにおけるチンパンジーの現状. *霊長類研究* 20(1): 63-66.

その他雑誌

- 1) Nakai, M., Zamma, K. (2004) Position and movement of the testes of wild chimpanzees at Mahale. *Pan Africa News* 11(1): 4-6.
- 2) Zamma, K., Inoue, E., Mwami, M., Haluna, B., Athumani, S., Huseni, S. (2004) On the chimpanzees of Kakungu, Karobwa and Ntakata. *Pan Africa News* 11(1): 8-10.
- 3) Zamma, K., Fujita, S. (2004) Genito-genital rubbing among the chimpanzees of Mahale and Bossou. *Pan Africa News* 11(2): 5-8.
- 4) Huffman, M. A. (2004) チンパンジー 薬膳料理. *心理学ワールド* 24(1): 25-28.
- 5) Huffman, M.A. (2004) Self-medication. "The Encyclopedia of Animal Behavior Volume 3." : 959-961, (ed. M. Bekoff) Greenwood Publishers, Westport CT.

学会発表等

- 1) Hashimoto, C. (2004) The risk of disease transmission in the Kalinzu Forest, Uganda. 1st Conference on: Diseases - the third major threat for wild Great Apes? (May. 2004, Leipzig, Germany).
- 2) Huffman, M.A. (2004) The chimpanzees of Rubondo Island: repatriation to African and the adaptation of West African chimpanzees to an East African Environment. African Great Apes: evolution, diversity and conservation 21 COE Biodiversity Program (A14) (Mar. 2004, Kyoto, Japan).
- 3) Kaur, T., Singh, J., Huffman, M.A., Moscovice, L., Nelson, P. (2004) CyberCHIMPP: A mobile field data collection system to facilitate chimpanzee research and conservation. The 20th International Primatological Society Congress (Aug. 2004, Torino, Italy) *Folia Primatologica* 75(Suppl 1): 288.

- 4) Mikami, A., Nishimura, T., Miwa, T., Matsui, M., Tanaka, M., Tomonaga, T., Matsuzawa, T., Suzuki, J., Kato, A., Matsubayashi, K., Goto, S., Hashimoto, C. (2004) Development of the Brain Structures in Chimpanzee infants. The 20th International Primatological Society Congress (Aug. 2004, Turino, Italy) *Folia Primatologica* 74(Sup.1): 303.
- 5) 松阪崇久, 島田将喜 (京都大・理・人類進化論) 座馬耕一郎 (京都大・霊長研), 中村美知夫, 西田利貞 (日本モンキーセンター) (2004) マハレの未成熟チンパンジーに広がる道具を用いた水飲み行動. 第20回日本霊長類学会 (2004年7月, 犬山).
- 6) 橋本千絵, 古市剛史 (2004) ウガンダ・カリンズ森林におけるチンパンジーの高頻度交尾: 発情メスの生活リズム. 第20回日本霊長類学会 (2004年7月, 愛知県).
- 7) 橋本千絵, 古市剛史 (2004) ウガンダ・カリンズ森林のエコツアーリズム・プロジェクト. 第41回日本アフリカ学会学術大会 (2004年5月, 愛知県).
- 8) 橋本千絵 (2004) ウガンダ・カリンズ森林の環境教育—チンパンジーの森とエコツアーリズム—. 第7回 SAGA シンポジウム (2004年11月, 京都).
- 9) Moscovice, L.R., Petzelkova, K., Issa, M., Huffman, M., Snowdon, C., Mbago, F., Kaur, T., Singh, J., Graziani, G. (2004) Role of lianas for introduced chimpanzees (*Pan troglodytes*) on Rubondo Island, Tanzania. The 20th International Primatological Society Congress (2004年8月, Torino) *Folia Primatologica* 75(Suppl. 1): 308.
- 10) Sgaravatti, A., Spiezo, C., Grassi, D., Huffman, M. (2004) How do chimpanzees learn leaf-swallowing behaviour. The 20th International Primatological Society (2004年8月, Torino) *Folia Primatologica* 75(Suppl. 1): 333.

社会構造分野

森明雄, 大澤秀行, 杉浦秀樹

<研究概要>

A) ヒヒ類の研究

森明雄, 杉浦秀樹

サウジアラビア・タイフ市のダムとアル・ルーダフ公園を利用するマントヒヒの群で, 個体群動態, 行動学的, 社会学的調査を行った. イヤー・タグで標識した個体の生存と所属するユニットを調べて社会構造の分析を進めている. 今年度も, ユニット構造の変化を記録することができた. 新たな発見としては, 2003年1月に標識された2ユニットのメス達が, 2003年8月, 9月の44日間の調査期間中には調査地から消失していたが, 2004年8月に, 2つのユニットはまとまって調査地に帰ってき, 毎日観察された. ダムサイト群は閉じられた系ではなく, 近隣群との交流が重要な課題であると分かった. この観察は, マントヒヒの特徴的社会構造であるクラン構造の存在に疑いを呈する観察である.

また, エチオピア南部アルシ州に生息するゲラダヒヒのポピュレーションの研究を引き続き行っている.

B) 中央アフリカ乾燥サバンナにおける霊長類の社会生態学的野外研究

大澤秀行

カメルーン北部でパタスモンキーの野外研究を1986年以来行っている. 今年度は, 社会変動の研究を基に, 単雄群から複雄群への社会進化のモデル作成に取りかかった. 調査地の生息哺乳類, 鳥類のチェックリスト資料をもとにした長期環境変遷の分析も引き続き行っている.

C) ニホンザルの個体群動態・生活史・繁殖とその生態学的決定要因の研究

森明雄, 大澤秀行, 杉浦秀樹, 深谷もえ (大学院生)

高崎山の餌付け集団を対象に継続個体数調査を行い, 得られた人口学的基礎資料をもとに人口学的諸変数を求め, 個体群動態の研究を進めている. 昨年度に引き続き, 出産率と個体群密度, オトナ雌数の間の相関性を分析している (大澤). また宮城県・金華山, 鹿児島県・屋久島西部海岸地域の野生群を対象に, 個体群動態の継続調査を実施した (杉浦).